

受講番号 19042 学校名 橋原高等学校 氏名 川北 ルナ

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 8名  
 科目名 リーディング 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Vivid Reading

クラスの様子・特徴

本来は進学を目標とするクラスであるが、進学予定者は3分の1である。英語に対して中学校から苦手意識を持っていると答えた生徒は6名おり、授業中は、集中力が持続しにくいことがある。

問題の確定

英語には苦手意識を持っている、また英語の学習方法が定着していないため、授業中に英語の話題からそれていくことが多い。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
活発で発言も多く、前向きに取り組もうとする姿勢は見えるものの、集中力が続かず、すぐに話題がそれていく傾向にある。家では課題以外の英語学習はあまりされていない。中学校時代からあまり音読の習慣がなく、簡単な単語でも発音できないことがある。	当初、英語が好きな生徒は半分であった。「楽しい授業」を望む生徒がほとんどであったが、自分の授業に対する姿勢がよいと感じる生徒は2名で、残りの生徒はしっかりやらなければならないと思いつつ、分らなければ仕方ないと感じている様子であった。	4月の課題考査でのこのクラスの平均は55点であった。単語は出題される範囲を前もって示しておき、50点分の試験を行ったが、平均点は12点であった。どうやって覚えたり理解すればよいか分かっていない様子であった。

リサーチ・クエスチョン

授業に集中できる時間を増やすためにはどのような工夫が必要か。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
本文を理解するために必要な、単語、熟語を生徒たちが自主的に楽しく反復練習できるようにするために、ペアワークでお互いに評価させることが効果的ではないか。また、単語の発音練習をリズムにのって行うことにより、楽しみながら集中できるのではないか。	仲の良いクラスであるので、ペアで活動させることで楽しみながら授業にも関心を向けられるのではないかと考え、新出単語の練習のさいに、まずリズムを使って練習し、その後ペアを作り、片方が日本語を読み上げ、片方が英語を答えるという活動を行った。1日目は見てスペリングを確認しながら、2日目以降は単語シートを見ずに練習し、その日にいくつ見ずに言えたかを記録していくようにした。	リズムにのって、単語の練習をすることは生徒達も気に入った様子で、大きな声で練習できた。お互いに日本語と英語を言い合うのが楽しい様子で、毎回言える単語を記録しているうちに、次回はもっと頑張ろうという気持ちが出てきた。最初は半分以下だった生徒も、ほぼ全部言えるようになると楽しいと感じていた。正解率も徐々に上がり、最近ではほぼ100%近くになった。
覚えた単語をこまめにテストすることにより、定着が図れるのではないか。そのさいに、ペアで成果を記録させたり、教師側からのアドバイスをすることにより、一人一人のやる気を引き出すことができるのではないか。	仮説1で行った、ペアでの発音練習がそのレッスンの終わりまで行えたところで、テスト日を設け、お互いに単語シートを見ないでテストを行い、結果を記録しお互いにコメントを伝える。覚えていなかった単語、発音があやしい単語などを指摘する。また、教師側でも一人一人のチェックを行う。不定期に全員でカルタ形式での復習も取り入れて、あきないように工夫した。2週間毎に前のレッスンに行った単語のテストも実施した。	評価されることも評価することも楽しいようで、まじめに行っていた。生徒自身の発音が誤っているということは、練習中に机間を回りながら訂正していったことで、ほとんどなくなっていた。カルタ形式で復習をしたところ、初めはあまりやる気の出なかった生徒も友人に助けてもらったりしながら、少しずつカードが取れることを喜んでいったようだ。
スラッシュリーディングを定着させることによって、意味を区切って考えることができ、覚えた単語からわからない部分を類推して文の内容を理解できることにより、興味関心をひきだすことができるのではないか。	スラッシュの入れ方を学び、短い文章で練習をした。徐々に文を長くしていったことで、少しずつ慣れさせるようにした。また、教科書の和訳を先に渡して予習させておき、教科書付属のCDを聞かせながら、リーディングの区切れたところでスラッシュを入れるように指示し、一区切りの長いところでは、その中で区切れるところを探すようにした。	スラッシュの法則に慣れていくうちに、ほぼ全員がスラッシュを入れていくことができ、和訳を先に渡しておく、比較的的理解しやすいという感想であった。新出単語以外のわからない単語も推測ができるようになった生徒もいた。True or Falseや本文に関する質問など、本文の概要はつかめるようになっていく。

研究の成果

3年生のリサーチクエスチョンには、初歩的すぎるものであったかもしれないが、英語の基本的な勉強方法を探しながら、学習に取り組んでいた様子で、今回のような簡単な方法でもやる気になったようだ。現時点ではどれくらいの単語力がついたかという評価はできないが、いろいろな角度からのアプローチによって、以前より授業中の英語に対する関心が長続きするようになった。また、小テストの結果から見ても、以前に比べて良い結果を残すことができた。

今後の授業改善の課題

授業に集中できる時間を増やすことができたとはいえ、基本的な部分が少し改善したところなので、さらにリサーチを続けていきたい。今後の課題は、家庭学習をいかに定着させ、授業で学んだことを今後どのように生かせるかということである。知らなかったことを知ることに楽しいと思える経験をさせることにより、自分から進んで取り組む姿勢を育てたい。今後は自主学習ノートを積極的に活用して授業の改善に取り組んでいきたい。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 0889-65-0181 電子メール